

非経口的栄養中の重症 Crohn 病患者での効果的な経静脈的サイクロスポリン療法

Effective intravenous cyclosporin therapy in a patient with severe Crohn's disease on parenteral nutrition: *Allam BF, et al* (Gut 28: 1166-1169, 1987)

cyclosporin (CyA) 療法は、各種の自己免疫疾患で有効である。CyA の経口投与が Crohn 病の患者で緩解に導いたとの報告が若干みられる。著者らも 1 例を経験している。

患者は 40 歳の女性で、Crohn 病の病歴は 8 年。急性増悪を来し入院、メトロニダゾールとアザチオプリンを投与したが、反応を示さなかった。X 線的には病変は小腸、大腸に広汎にみられた。過去 8 年間プレドニ

ンを含めた通常の治療を受け、手術を 4 回受けた。残りの小腸は約 100 cm と推定された。栄養障害は経腸栄養では回復せず、完全非経口栄養に反応した。18 か月間にわたる夜間の在宅 TPN の後に体重は回復した。

CyA の短期間の経口投与の効果が、2 つの報告にみられる。そこで著者らは、この患者の今回の増悪に対し、CyA 療法を試みることにし、まず経静脈的に投与した。CyA 5 mg/kg を TPN 注入の前に 2 時間かけて投与した。投与量は週に 2 回血中濃度を測定し適量を調整した。3 週の終了時、患者はそれ以上注射に耐えられなくなり、経口投与に切り替えたが、6 週の終了時効果はみられず、再度経静脈でやることを説得し、更に 7 週間続けた。臨床的には、排便回数の減少、Crohn 病活動指

数 (CDAI)、CRP の改善が著明にみられた。血清アルブミンも上昇し、栄養状態の改善がみられた。そこで治療を中止したが、全身状態は改善が続き、CDAI は 3 週以内に緩解値にまで改善した。CyA 治療をやめて約 2 か月後に再燃を起こし、更に 4 か月後には粘血便を 1 日に 20 回排出、体重が 5 kg 減、アルブミンが低下、CDAI、CRP が亢進した。そこで 2 回目の CyA 治療を経静脈的に行い急速に緩解に至った。

副作用はいろいろ認められたが、治療を中止せざるを得ないほどではなかった。これらの所見は、通常の治療や CyA の経口療法に反応しない重症 Crohn 病で、経静脈的 CyA の投与が役立つ可能性を示唆した。

(愛知県がんセンター消化器内科

小林 世美 抄)